

■木下順庵 儒学者。栄利求めず塾で教育に努め、朝鮮通信使の高評価で幕府儒官となり、新井白石ら逸材を輩出。

きのしたじゅんあん

利根川付替始1621= 京都で生まれる。

祖父も父も浪人だったため、生活は苦しかったが、幼時から才気に富み、

紫衣勅許無効1627= 6歳：この頃、天海から法嗣にしたいと思われたり、

寛永禁書令・1630= 9歳：

徳川秀忠没・1632=11歳：

鎖国令始・・・1633=12歳：_驚くべき内容の「太平頌」を作って、公卿烏丸光広に知られ、天皇謁見は崩御で立消えになるも、

_自信を得て、儒者をめざすようになり、

島原の乱始・1637=16歳：堀川で塾を開いていた_松永尺五(貞徳の子)に入門、たちまち名が知られ、

鎖国令Ⅴ・・・1639=18歳：

寛永飢饉始・1640=19歳：_幕府の剣術指南役柳生宗矩が3代将軍家光に仕えさせようと江戸に連れられるも、幕府儒官は林家が専横を

振っていて、実現できず、帰京。衝撃受け、一層勉学に励むも、以後、声がかかることなく、

家光鎖国完成1641=20歳：

・・・1646=25歳：尺五が{尺五堂}を開設したのに対して、頌詩を作るなどしながら、

市中諸法度・1648=27歳：

尺五のもとで、在野の学者として子弟教育に当るうち、

徳川家光没・1651=30歳：

明暦の大火・1657=36歳：*尺五が死去したため、独立して開塾、

この間、結婚し、2男を儲けたが、

・・・1660=39歳：妻が死去。_ようやく、加賀藩主前田綱紀から招聘される。

_以後、好学の藩主から寵愛されて、晩年まで京都を拠点に、3年周期で江戸・金沢を往来して教育に努めながら、求めに応じて抜その他の短文を書き、

酒井忠清大老1666=45歳：

足利学校再建1668=47歳：_大老酒井忠清に謁見して、幕府中央にも認められ、

東南海運確立1672=51歳：室鳩巢が入塾。小石川後樂園で*水戸藩主徳川光圀に会い、明から亡命し、光圀が賓師として招聘していた儒学者朱舜水と意気投合、以後、本格的に朱子学を学んで、さらに成長。

談林派俳諧・1675=54歳：

徳川綱吉將軍1680=59歳：

好色一代男・1682=61歳：_ようやく幕府儒官に登庸されるも、待遇悪く、前田綱紀が補填している。以後、江戸に定着、

堀田正俊暗殺1684=63歳：貝原益軒と交友する一方、新井白石が弟子入り、

出世景清初演1685=64歳：雨森芳洲も弟子入りするなど、*超一流の師になるとともに、

_この間、度々朝鮮通信使と詩を交換して驚嘆させ、朝鮮で名を知られ、文集の序文まで依頼されるようになって、幕府も高く扱うようになり、

湯島聖堂・・・1690=69歳：湯島聖堂が完成後、儒者が特別な政治の補佐役となって、

奥の細道・・・1693=72歳：蓄髪、この年、白石を後の将軍家宣に推挙、

芭蕉+師宣没 1694=73歳：_將軍綱吉の侍講として「中庸」を講義するまでになって、

生類憐令頂点1695=74歳：

・・・1697=76歳：長男が死去。

吉保大老格・1698=77歳：_没した。